

たきのうえ を思う

紋別市在住
葛西 佑さん



生まれた頃は濁川に住んでいました。当時は木材工場が沢山あり、私の父も製材工場で働いており濁川の保育所に通っていました。過日の大同窓会でも昔の保育所を見学することがあったと友人から聞き、なつかしい思いでいっぱいになりました。もう保育所自体はやっていないという事は知ってはいたものの、見学の時の話を聞くと名残惜しい気持ちがこみ上げてきました。

そのまま濁川の小学校へと上がり、友人たちとの楽しい学校生活を送っていました。先生は厳しい人だったのを覚えているのですが、当時では当たり前でした。少子化の中で、今も統合せずに学び屋であった濁川の小学校が残り続けていることをとても嬉しく思います。その後、私は中学校を卒業して、御縁があつて漁師となる事となり、紋別へ移り住むこととなりました。紋別に移り住んでからも休漁期間中には二区の農家さんへお世話になり車で出稼ぎに通っていました。

そのまま濁川の小学校へと上がり、友人たちとの楽しい学校生活を送っていました。先生は厳しい人だったのを覚えているのですが、当時では当たり前でした。少子化の中で、今も統合せずに学び屋であった濁川の小学校が残り続けていることをとても嬉しく思います。その後、私は中学校を卒業して、御縁があつて漁師となる事となり、紋別へ移り住むこととなりました。紋別に移り住んでからも休漁期間中には二区の農家さんへお世話になり車で出稼ぎに通っていました。当時の私は仕事終わりに栄町の銭湯で風呂に入り、汽車に揺られて帰るのが楽しみでした。結婚して娘を授かってからは、家族で滝上に足を運ぶことも多くなりました。駅の近くのお菓子屋さんで売られていたどら焼きが娘の好物で、芝ざくらの満開の頃や錦仙峡が秋に色づく頃に皆で訪れ

ては買って帰るほどでした。娘が学校に通うようになってからは部活動の試合などが滝上である時には時々迎えに行き、当時あつた喫茶店やパチンコ屋で時間をつぶすことが多かったのも、今では良い思い出です。それからは娘が嫁いだ札幌へ足を運ぶために紋別からの通り道として滝上を訪れる事が多くなりました。紋別から出発し、お昼ご飯を早めに滝上のでんでこまいで食べるのが滝上での新たな楽しみとなっていました。今はもうなくなってしまったので、とても残念です。私の家族との思い出は滝上の町とともにありました。漁期に出してしまうと長く家を空ける事が多く、中々家族との団らんの時間がうまく取れなかったのですが、滝上を訪れる事で思い出づくりができていたように思えます。今度、孫が札幌からこちらに来る際に滝上を訪れて、滝上でのどんな思い出をつくろうかと楽しみにしながら、心待ちにしております。最近滝上の名前を新聞やテレビで見ることが多くなりました。活気づいた話題を見るとうれしくなります。今年の2月頃に高知県の子どもが来ていたという事を知り驚いたりもしました。人口が少なくなっていて大変かとは思われますが、故郷滝上を愛し、郷土を守り続けて下さっている人に感謝し、また思いを馳せながら訪れる事としたいと思っています。